

- 函館管内の水産物トレーサビリティシステムについて -

水産物トレーサビリティ研究会 理事 桑原伸司

1. 管内水産業の現状

(1) 漁業の現況

□ 檜山支庁管内

イカとスケトウダラで生産量全体の約7割。

主要魚種のスケトウダラは、付加価値販売を目指し、平成12年度から韓国へ鮮魚出荷。

□ 渡島支庁管内

日本海のイカ、マスの漁船漁業とウニ、アワビの浅海漁業

津軽海峡から太平洋にかけてのコンブ養殖と各種刺し網

内浦湾でのホタテ養殖

と変化に富んだ海岸線により多種多様な漁業が営まれている。

(2) 生産者・消費者の意識が非常に高い

2. 函館管内のトレーサビリティ技術のポテンシャル

(1) 函館国際水産・海洋都市構想

(2) 函館管内の主な研究機関

□ 北海道大学函館キャンパス（水産学部、大学院水産科学研究科）

□ 公立はこだて未来大学

□ 北海道教育大学函館校

□ 函館大学（函館短期大学）

□ 函館大谷短期大学

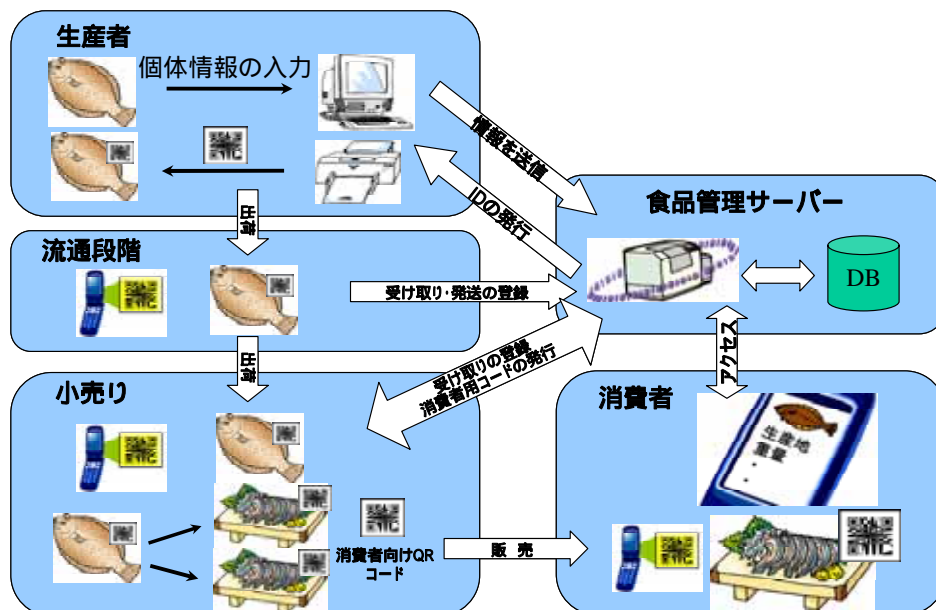
□ 函館工業高等専門学校

□ 北海道立函館水産試験場

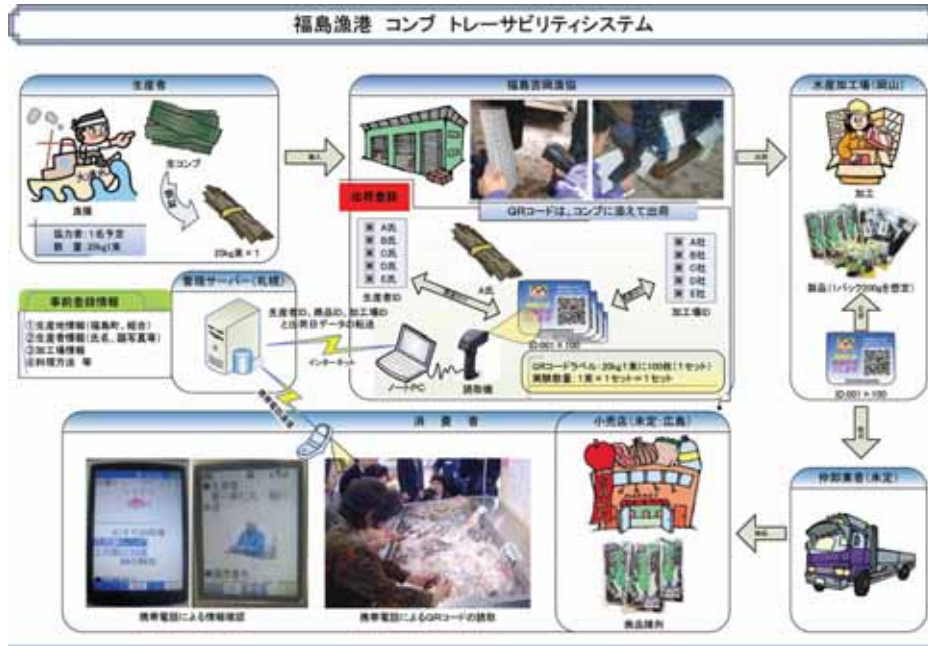
□ 渡島中部地区水産技術普及指導所

3. 管内技術を活用したトレーサビリティの取組み

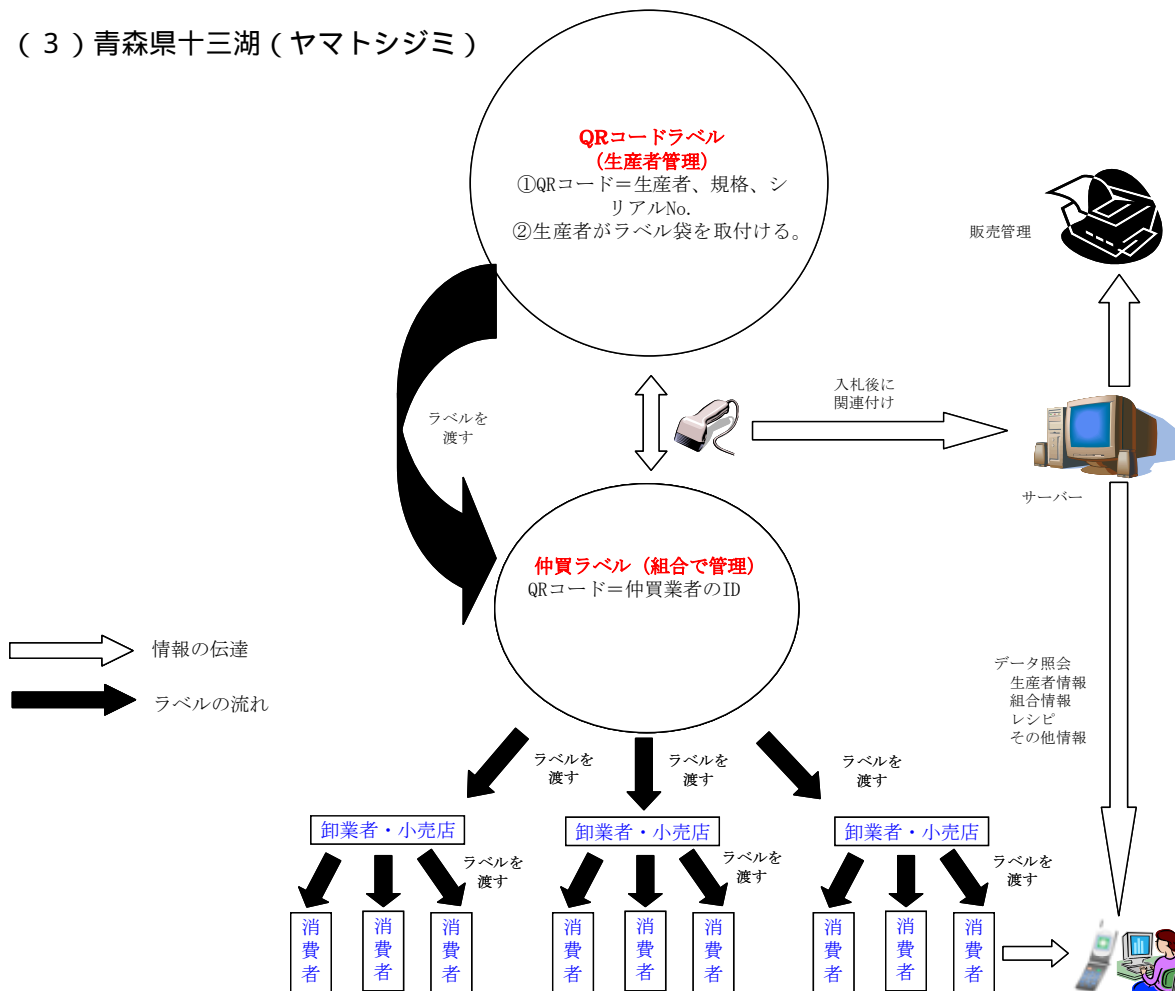
(1) 福島町（活ヒラメ）



(2) 福島町 (コンブ)



(3) 青森県十三湖 (ヤマトシジミ)



(4) その他
愛媛県、中国、タイ王国